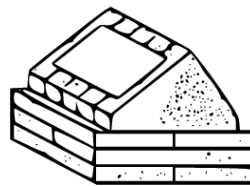


南アルプスユネスコエコパーク登録 10 周年記念事業

大井川源流の碑設置プロジェクト実施報告書

2025 年 5 月 29 日



主催：南アルプスユネスコエコパーク静岡地域連携協議会
企画・運営：一般財団法人南アルプスみらい財団

目 次

1	はじめに	・ ・ ・	p. 1
2	大井川源流の碑設置プロジェクトとは	・ ・ ・	p. 2
3	業務分類別実施結果		
	(1) 記念碑設置		
	① 記念碑制作	・ ・ ・	p. 3
	② 銘板リレー	・ ・ ・	p. 4
	③ 記念碑運搬ボランティア登山	・ ・ ・	p. 5
	④ 資機材運搬登山	・ ・ ・	p. 6
	⑤ 記念碑設置施工	・ ・ ・	p. 7
	(2) 広報		
	① ノベルティ制作	・ ・ ・	p. 8
	② 銘板到達式	・ ・ ・	p. 9
	③ 事業紹介看板制作	・ ・ ・	p. 10
	④ 事業紹介看板設置施工	・ ・ ・	p. 11
	⑤ 大井川源流の碑完成報告会	・ ・ ・	p. 12
	⑥ プロジェクト紹介映像制作	・ ・ ・	p. 13
	⑦ 実施報告書制作	・ ・ ・	p. 14
	(3) 呼びかけ		
	① 協賛金募集	・ ・ ・	p. 15
4	収支決算報告	・ ・ ・	p. 16
5	協力者ご紹介	・ ・ ・	p. 17
6	プロジェクト総括	・ ・ ・	p. 19
7	おわりに	・ ・ ・	p. 20

1 はじめに

『南アルプスユネスコエコパークが2024年に登録10周年を迎えるにあたって、何ができるだろう?』

大井川源流の碑設置プロジェクトは、2023年夏に静岡市と井川地区の関係者との意見交換の場で、地元の要望を募ったことから始まりました。

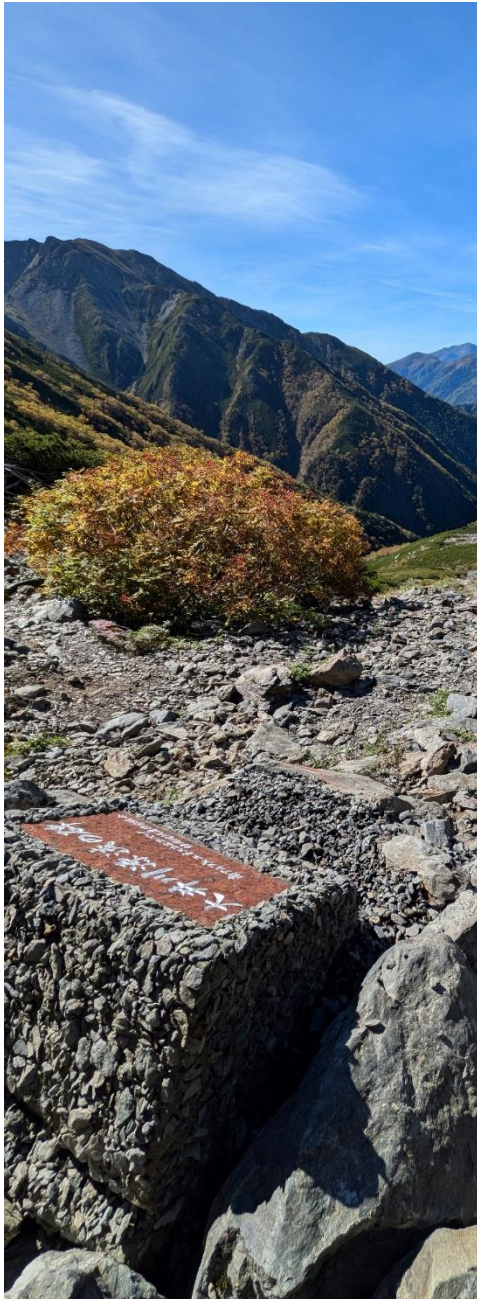
様々な意見のなか、井川連合町内会長栗下浩信様から、次のような意見が出されました。

「大井川流域に生活する人達には、南アルプスの恩恵が自分たちの生活とつながっているということをもっと知って欲しい。井川地区をはじめ、大井川には発電用のダムが数多くある。ダムは大井川の水を使って電力を作り出すが、その豊かな水を育んでいるのが南アルプスの山々である。記念イベントを開催するのであれば、下流の人たちにもこの大井川の流れを通して南アルプスとの繋がりを意識してもらえるイベントにして欲しい」

この意見を受けて、南アルプスユネスコエコパーク静岡地域連携協議会では、10周年記念イベントの企画を進め、大井川の恵みを軸とした森里川海のつながりの再認識、構築、発展に向けた取組として、また、大井川の流れに関わる多くの皆様に参加を呼びかけ、日々の生活のつながりとしての南アルプスを意識してもらうため、間ノ岳直下の湧水箇所に大井川の源流を示す「大井川源流の碑」を設置するプロジェクトを実施することとしました。

本報告書では、令和6年度（2024年度）に、南アルプスユネスコエコパーク静岡地域連携協議会主催により実施された大井川源流の碑設置プロジェクトの様子を御報告します。

事務局

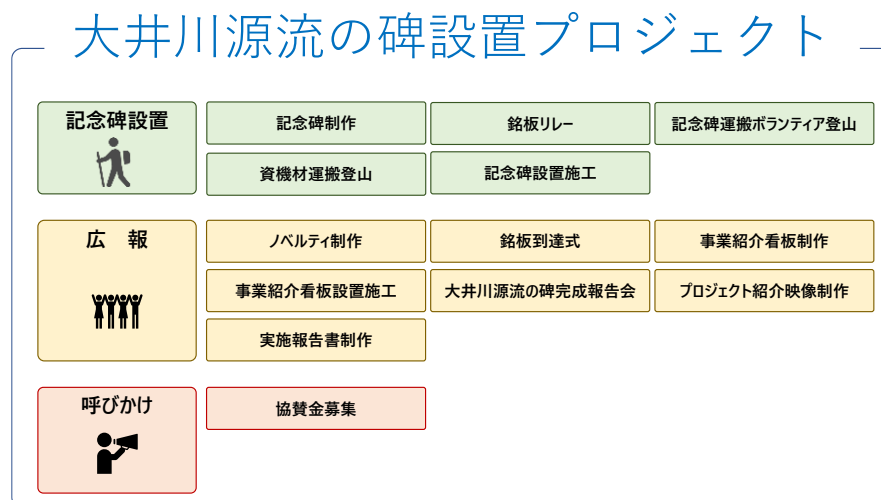


2 大井川源流の碑設置プロジェクトとは

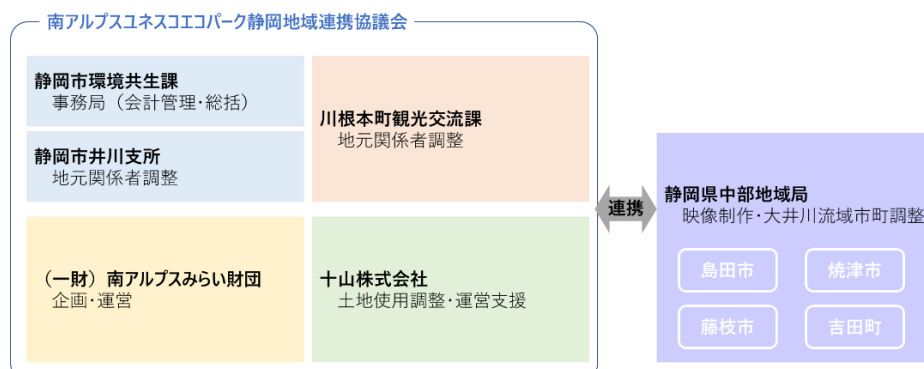
1 プロジェクト実施に当たっての基本的な考え

- 参加者がみんなで汗をかき、自分たちの手で「大井川源流の碑」を作ったことを実感できるように、全ての材料・資材をヘリコプター等は使わずに人力で大井川源流の地（南アルプス間ノ岳）まで運ぶ。
- 材料・資材の運搬には、ボランティアを募ることとし、①駿河湾から大井川の源流まで遡る海からのチーム「銘板リレーボランティア」と、②山梨県から北岳を越えて源流まで運ぶ山越えのチーム「歩荷×ボランティア＝ボッカティア」に分かれて、現地でそれを組み立てる。
- 体力や年齢に関わらず、どなたでも参加しやすいように、労務、技術、知識、資金等の様々な関わり方の選択肢を用意する。

2 プロジェクトの業務区分

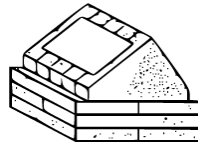


3 プロジェクトの実施体制



3 業務別実施結果 (1) 記念碑設置 ① 記念碑制作

1 記念碑の基本情報



記念碑の総重量は 180kg 程度

○構造の考え方

構造は、雪崩に耐えられる構造で、施工時は分割して各部材を人力で背負って運搬できる重さ(20kg 以下)にすることに加え、施工時間の縮減と環境への影響を考慮して、現場で組立ができるものとししました。

○各部材の説明

基 礎	既製品のプレストレストコンクリート板を切断し、17kg/枚ほどの長方形の石板 6 枚を、2 枚ずつ互い違いに 3 層に重ね接着する構造。
台 座	現場打ちの鉄筋コンクリート製としました。あらかじめ山麓で制作し、14kg/個程度の三角形の石板 5 つを接着する構造。
銘 板	赤御影石。揮毫は、記念碑の設置場所である静岡市の市長と協議し、本プロジェクトの発案者である井川連合町内会長栗下浩信様に依頼しました。

2 制作上の課題と対応

(1) 型枠

今回の現地組み立て方式では、設置後の破損を防止するため、通常の土木工事での精度では管理できないミリ単位以下の型枠の制作精度が要求されますが、長年精度の高い構造物の建設に携わった井上博之様、小柳津智様のご協力により制作されました。

(2) プレストレストコンクリート板

切断すると寸法誤差が生じやすく、鉄筋の腐食も懸念されるプレストレスとコンクリート板を、山一ピーエスコンクリート株式会社のご厚意により、一枚ずつ特注で制作されました。

3 製作協力

株式会社ヤマエイ長島建設の製作指導のもと、井川小中学校の生徒さん 3 名と台座を製作しました。



3 業務別実施結果 (1) 記念碑設置 ② 銘板リレー

1 銘板徒歩リレーの概要

項 目	内 容
開 催 日	令和6年7月5日から7日まで : 吉田町水防センター ⇒ 榎島 令和6年7月18日から19日まで: 二軒小屋 ⇒ 大井川源流部 ※榎島～二軒小屋までは、一般の通行が規制されていたのでスタッフが運搬
リレー区間	○7月5日 (6:00 吉田町水防センター ⇒ 12:31 旧神座小学校) ・区間数: 9 ・距離: 25.8km ・参加者: 7チーム13人(公衆による) ※旧神座小学校～地名駅(17.0km)は安全のためスタッフが運搬 ○7月6日 (5:00 地名駅 ⇒ 17:18 井川ビジターセンター) ・区間数: 16 ・距離: 46.2km ・参加者: 14チーム61人(公衆による) ○7月7日 (5:00 井川ビジターセンター ⇒ 15:52 榎島) ・区間数: 16 ・距離: 40.3km ・参加者: 16チーム46人(公衆による) ○7月18日～19日 (二軒小屋 ⇒ 大井川源流部) ・区間数: 2 ・距離: 22.8km ・参加者: 3人
総 距 離	約163.1km
総 区 間 数	41区間
参 加 総 数	127人
関 係 市 町	静岡市、島田市、焼津市、藤枝市、吉田町、川根本町

※リレーの実施に当たっては、各市町、最寄りの警察署等に必要な申請を行いました。

2 当日の様子

7月5日



7月6日



7月7日



7月18日-19日



3 業務別実施結果 (1) 記念碑設置 ③ 記念碑運搬ボランティア登山

ぽっか【歩荷】

荷物を背負って山越えをすること。特に、山小屋などに荷上げをすること。また、それを職業とする人。「一
道」《季 夏》（出典:デジタル大辞泉(小学館)）

荷物を人が背負って山に荷上げすることを歩荷ということから、ボランティアで歩荷する方を「ポッカティア」と名付けました。当プロジェクトでは、ポッカティアにより、山梨県の広河原から北岳を越えて源流まで記念碑の基礎と台座を人力で運搬しました。

○ A班（基礎の運搬）の活動の様子

項 目	内 容
日 程 ・ 行 程	7月12日 芦安駐車場（集合）～北岳山荘・肩の小屋（宿泊） 7月13日 各山小屋～源流部～北岳山荘・肩の小屋（宿泊） 7月14日 各山小屋～芦安駐車場（解散）
参 加 者 数	17人
当 日 の 様 子	   
参 加 者 の 声（抜粋）	・人生でもトップクラスに楽しい時間を過ごし・貴重な体験をすることができた。 ・みんなで同じ目標を持って達成でき、とてもいい経験だった。

○ B班（台座の運搬）の活動の様子

項 目	内 容
日 程 ・ 行 程	7月13日 芦安駐車場（集合）～北岳肩の小屋（宿泊） 7月14日 山小屋～芦安駐車場（解散）※荒天のため13日時点で中止を決定
参 加 者 数	16人
当 日 の 様 子	   
参 加 者 の 声（抜粋）	・残念な結果になってしまいましたが、安全第一なので仕方がない。 ・とても貴重な思い出ができて楽しい2日間でした。絶対いつか見に行きます。

3 業務別実施結果 (1) 記念碑設置 ④ 資機材運搬登山

1 検討の経緯

令和6年7月13日～14日に実施された「ボッカティア」において、B班が北岳肩の小屋まで運搬した台座でしたが、北岳肩の小屋から、間ノ岳直下の大井川源流部まで運搬する必要があったため、「ボッカティア」の再実施を検討しました。

検討の結果、①天候が安定しないこと、②宿泊地（山小屋）の確保が困難であることの2点の課題に解決の目途が立たなかったことから、歩荷を専門に行う事業者が発注することとしました。

2 事業者情報

名 称	株式会社歩荷隊
所 在 地	群馬県利根郡片品村土出 150-1
決定の経緯	専門事業者の見積合せによる。

3 運搬の様子

- ・実施日：令和6年9月17日から20日まで



3 業務別実施結果 (1) 記念碑設置 ⑤ 記念碑設置施工

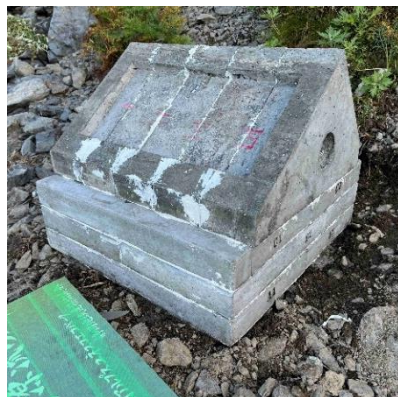
1 概 要

項 目	内 容
実 施 日	令和6年9月30日から10月3日まで
施 工 者	株式会社ヤマエイ長島建設
確 認 者	財団 田島専務理事兼事務局長、梶田レンジャー

※現地への設置と当日の施工に当たっては、十山株式会社、環境省南アルプス自然保護官事務所、静岡市森林経営管理課に必要な申請や届出を行いました。

2 施工の様子

記念碑の施工には、コンクリートや接着剤を使用するため、2日間連続する晴天が必要でした。天候が不安定な今期としては、施工実施日だけは奇跡とも言うべき晴天に恵まれ、記念碑を完成させることができました。

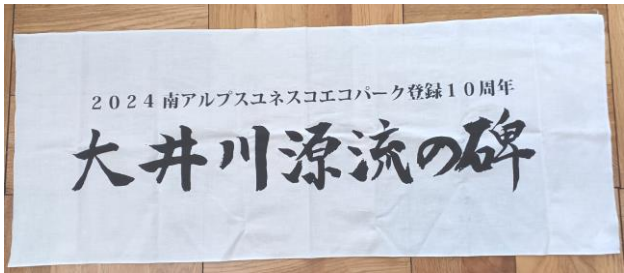


3 業務別実施結果 (2) 広報 ① ノベルティ制作

1 概要

当プロジェクトについて広く周知を図るため、配布や保管が容易な手ぬぐいを制作しました。手ぬぐいは、「南アルプスユネスコエコパーク登録10周年記念」の表示に加えて、記念碑の銘板と同じ「大井川源流の碑」の揮毫をデザインしました。

2 手ぬぐいの制作

項 目	内 容
デザイン	 大きさ：350mm×900mm
受 注 者	株式会社S-1（東京都新宿区新宿 1-13-11 シブヤビル5階）
制 作 数	300 枚

3 活用の様子



3 業務別実施結果 (2) 広報 ② 銘板到達式

銘板徒歩リレーにより記念碑の銘板が間ノ岳直下の大井川源流部に到達したことを確認する式典の開催が、令和6年7月19日に計画されました。現地に向かう行程は、入山日となった18日は天候に恵まれましたが、翌19日の北岳周辺において悪天候に見舞われました。参加者の安全を考慮し、式典は中止としました。

1 式典の概要

項 目	内 容
式 典 名	大井川源流の碑銘板到達式
実 施 日	令和6年7月19日（金）
式 次 第	1 開式 2 銘板の引渡し 3 静岡市長挨拶 4 閉式

2 行程等

7月18日	広河原インフォメーションセンター ⇒ 北岳肩の小屋（宿泊）
7月19日	北岳肩の小屋 ⇒ 北岳 ⇒ 北岳肩の小屋（宿泊）※荒天のため式典中止判断
7月20日	北岳肩の小屋 ⇒ 広河原インフォメーションセンター

3 当日の現地の様子



3 業務別実施結果 (2) 広報 ③ 事業紹介看板制作

大井川源流の碑設置プロジェクトの事業内容等を紹介する看板を製作しました。
看板の記載内容は以下のとおりです。

項 目	内 容
タ イ ト ル	【大井川源流の碑】設置記念
設置趣旨等の記載事項	南アルプスの間ノ岳から沁み出た最初の一滴は、大井川の流れとなって、流域の豊かな生態系を育み、人々の生活を潤し、世界の海へとつながる。南アルプスユネスコエコパークに登録されてから 10 周年の節目に、改めて、大井川が運びつないできた自然の恵や人々の営みに思いを馳せる。南アルプス、大井川の恵を未来へ。一緒に。ここに大井川源流の碑を建立し、私たちの結束と決意を示す。
事業説明等の記載事項	表題：大井川源流の碑設置 内容：この石碑は、右に掲げる大井川・南アルプスを愛する多くの皆様のご協力・ご支援により建立された。 ○台座は、地域の企業と井川小中学校の生徒の協働により製作された。 ○銘板を除く資材（基礎・台座等）は、総勢 33 名の歩荷ボランティアにより、山梨県側登山口から北岳、間ノ岳を越えて源流に運ばれた。 ○銘板は、延べ 127 名のリレーにより、河口（吉田町）から大井川の流にに沿って、焼津市、藤枝市、島田市、川根本町を経て榎島（静岡市葵区）まで運ばれた。また、榎島以北の山岳区間は、山岳のスペシャリストが大井川を遡上し、源流まで運搬した。
記念碑写真	記念碑の設置状況写真（下記イメージのとおりに）
協力者名等	記念碑の設置にご協力いただいた個人・団体・企業様の氏名（下記イメージのとおりに）
設 置 者	南アルプスユネスコエコパーク 静岡地域連携協議会
サ イ ズ	高さ 1,200mm×幅 1,500mm
受 注 者	有限会社モエ（掛川市倉真 4026-5）
イ メ ー ジ	

3 業務別実施結果 (2) 広報 ④ 事業紹介看板設置施工

1 概 要

当プロジェクトの趣旨の説明と、ご協力いただいた皆様のご紹介を目的として、静岡県側の南アルプスの登山拠点である樫島に、土地所有者である十山株式会社の許可を得て、看板を設置しました。

2 設置場所

所 在 地	静岡市葵区田代 1285 番地
位 置 図	大井川源流の碑 記念看板位置図 (縮尺 1:2,500)

3 設置確認

受 注 者	株式会社特種東海フォレスト（島田市金谷東一丁目 753 番地の 1）
確 認 日	令和 6 年 11 月 28 日
現地の様子	

3 業務別実施結果 (2) 広報 ⑤ 大井川源流の碑完成報告会

1 報告会開催の経緯

当プロジェクト当初のご案内では、樫島に設置した事業紹介看板をご協力いただいた皆様にお披露目するため、令和6年8月11日（山の日）に樫島において、式典の開催を予定しておりましたが、記念碑の設置時期の都合上、現地での開催を見送りました。

代替事業として、プロジェクトにご協力いただいた皆様に記念碑の完成をご報告する「大井川源流の碑完成記念イベント」を静岡市民文化会館において12月14～15日に開催することとしました。

2 完成記念イベントの各事業

(1) 大井川源流の碑完成報告会（12月15日（日） 14:00～14:30）

主な内容	(1) 事業紹介 (2) 大井川源流の碑メイキング映像上映 (3) 参加者のことば（リレー参加者（徒歩・登山）、歩荷参加者）
参加者数	120人
当日の様子	

(2) 大井川源流の碑完成記念トークショー（12月15日（日） 12:40～13:20）

主な内容	山岳関係有識者によるトークセッション （登壇者：田中幹也氏、望月将悟氏、大石明弘氏）
参加者数	150人
当日の様子	

(3) 大井川源流の碑事業紹介展示（12月14日（土）、15日（日））

主な内容	同日開催の静岡市が主催する「南アルプスユネスコエコパーク 10周年記念大会」に併せて、事業紹介看板の複製等を展示。
当日の様子	

3 業務別実施結果 (2) 広報 ⑥ プロジェクト紹介映像制作

主に本プロジェクトの実施状況や参加者、関係者の思いを映像として記録し残すとともに、映像を公開することで、より多くの人たちに本プロジェクトの主旨や南アルプスの魅力を知って頂くために製作することとしました。

1. 映像の収録

- ・源流の碑製作段階
- ・リレー実施（吉田町～源流）の様子
- ・リレー参加者へのインタビュー
- ・ボッカ実施の様子
- ・源流の碑設置の様子
- ・関係者へのインタビュー

2. 映像の編集・製作

- ・ショートバージョン（10分）動画編集・製作
- ・ロングバージョン（1時間）動画編集・製作

3. 映像収録・編集・製作者

- ・十山株式会社

3 業務別実施結果 (2) 広報 ⑦ 実施報告書制作

1. 報告書制作の主旨

- ・本報告書は、南アルプスユネスコエコパーク登録 10 周年記念イベントとして開催された「大井川源流の碑設置プロジェクト」の実績を、当プロジェクトに参加・ご協力いただいた方にご報告するとともに、南アルプスユネスコエコパーク静岡地域連携協議会が、次の 10 年（南アルプスユネスコエコパーク登録 20 周年）に向けて行う取組みの基礎としてとりまとめるものです。

2. 記載事項

- ・報告書には、プロジェクト実施までの経緯や主旨、実施にあたっての考え方、役割分担、記念碑設置の流れ、広報、協賛金の募集、収支決算、協賛者のご紹介などについて記載しました。

3. 報告書の公開方法

- ・より多くの方々にプロジェクトの主旨をご理解いただくために、(一財) 南アルプスみらい財団のホームページ (<https://www.mamf.or.jp>) に掲載することとしました。

3 業務別実施結果 (3) 呼びかけ ① 協賛金募集

1 協賛金募集の概要

項 目	内 容
募 集 期 間	令和6年5月14日（火）から6月30日（日）まで
募 集 内 容	個人：1万円/口 企業・団体：5万円/口
主 な 用 途	(1) 大井川源流の碑の制作費 (2) 大井川源流の碑の資機材の運搬費 (3) 大井川源流の碑の設置施工費 (4) ノベルティ制作費 (5) 事業紹介看板の制作費 (6) 事業紹介看板の設置施工費 (7) お披露目式の開催費 (8) 記録映像の製作費
目 標 金 額	3,000 千円

2 募集結果

- ・ 協賛金総額： 52 者 2,700 千円

【内訳】

区 分	件 数	協賛金額
個 人	15 者	250,000 円
企 業	34 者	2,300,000 円
団 体	3 者	150,000 円
合 計	52 者	2,700,000 円

3 感謝状の送付

- ・ ご協賛いただいた、個人、団体、企業の皆様（52 者）

4 収支決算報告

収入の部	
項 目	金 額
協議会予算	500,000 円
協賛金収入	2,700,000 円
合 計	3,200,000 円

支出の部	
項 目	金 額
記念碑制作費	300,000 円
ノベルティ制作費	86,900 円
背負子レンタル料	54,810 円
事業紹介看板制作料	307,340 円
事業紹介看板設置料	220,000 円
保険料	4,828 円
歩荷作業委託料	429,000 円
完成報告会会場使用料	226,490 円
映像制作料	1,539,872 円
雑費	22,330 円
繰越金	8,430 円
合 計	3,200,000 円

5 協力者ご紹介

区分等	ご芳名（順不同、敬称略）
銘板徒歩リレー	大竹一広、海野進、高橋敏夫、遠藤伊佐子、塩澤智保、遠藤公英、影山秀樹、佐野優、米澤正信、中村玲子、鈴木淳也、北原敦、田代健太郎 伊藤大輔、熱川慧、秋元伸哉、堤孝行、大城正幸、横畑和哉、鈴木裕麻、荒間大地、梶山雄紀、中村弦太郎、畑田響、増田卓史、石垣明俊、稲葉紀博、梶山正幸、北村浩二、中野朋子、櫻井久美、諸田奈津希、酒井泰、榛葉大樹、池本智安、原田大輔、清水元気、深澤宙希、神谷亮汰、小平勝彦、森脇祐矢、伊藤晴美、駒井久美子、松永美穂、鍛冶早苗、鈴木寧々加、鈴木雄大、佐藤章、小川英二、酒井友輔、片岡知行、高橋将年、立花裕之、池部亨、櫻井健博、吉川文彦、米山正喜、海野祐子、藺田靖邦、平松敏浩、榊原和、中村隼人、鈴木浩之、前田大貴、望月将悟、福井哲也、石田賢生、小澤正則、望月倫久、望月恵美、倉上弘、淀村美弘、浜康之、浜則子 坂本圭司、坂本爽唄、坂本結生、山本賀一、山本博子、藁科公子、森田由美、高橋奈津子、田中敏行、巢山尚香、山崎明日香、山崎翔真、栗田知典、影山有郁、中村直喜、末久哲也、吉田逸郎、栗原崇、栗原いろり、奥川裕一、奥川和柊、遠藤恵弓、遠藤基、遠藤律花、望月浩二、永田真子、村本有夏、村本彩、西川仁之、西川有貴、西川結太、西川環子、渡邊泰済、角皆光治、内山達矢、助宗武志、栗田英里、社家間太郎、望月正人、望月仁美、長島光彰、長島秀俊、長島美保、小川滋之、山中佑美、永松典子、小林大起 大石明弘、是永和行、鈴木康平
ボッカティア	田代健太郎、吉澤大介、池田幸浩、長尾忠史、淀村美弘、森住祐紀、下平博盛、袴田久美子、丹羽慎治、栗田知典、影山有郁、藤ヶ谷昌則、小竹啓功、前林真美、須藤英明、鈴木克浩、日比谷建瑠、久保寺有希、大石雅春、影山千鶴、田中敏行、巢山尚香、内田圭祐、大導寺真理、表寺務、宮澤英樹、中村啓佑、鈴木大樹、高林孝行、梅田修平、鈴木琴音、吉田朔海、森實修平
協賛（個人）	天岸祥光、伊藤道子、伊藤慶宗、影山秀樹、栗下浩信、コンドウスミオ、柴孝宏、杉浦弘承、田島章次、寺沢玲子、戸野谷宏、鳥羽茂、溝口康博、山本良一、吉岡一枝

区分等	ご芳名（順不同、敬称略）
協賛（企業等）	株式会社リバティ、クミアイ化学工業株式会社、 特種東海製紙グループ（特種東海製紙株式会社・株式会社特種東海フォレスト・十山株式会社） 井川自治会連合会、一般社団法人静岡市井川振興会、影山木材株式会社、 株式会社アクティオ、株式会社小島建材、株式会社小山商会静岡営業所、 株式会社サイエンス、株式会社センズ石油、 株式会社財産ネットワークス静岡、株式会社静岡銀行、株式会社清水銀行、 株式会社東海アクアノーツ、株式会社 TOKAI ホールディングス、 株式会社マキヤ、木内建設株式会社、静岡ガス株式会社、 静岡ガス工事安全協議会、静岡県グリーンバンク、静岡新聞社・静岡放送、 しずおか焼津信用金庫、しずてつジャストライン株式会社、鈴与株式会社、 鈴与商事株式会社、大成建設・佐藤工業共同企業体、田中産商グループ、 中央静岡ヤクルト販売株式会社、中部電力株式会社静岡水力センター、 東海旅客鉄道株式会社、はごろもフーズ株式会社、 Fortune. 藤田株式会社、富士山静岡空港株式会社、有限会社マエテック
記念碑制作	（静岡市立井川小中学校の生徒さん）遠藤律花、長島愛都、西川結太 （記念碑の制作方法等助言・指導）井上博之、小柳津智 （鉄筋塗装）株式会社千尋工業 （記念碑の制作指導・設置）株式会社ヤマエイ長島建設、井川山岳会 （記念碑の設計）株式会社松井測量設計事務所
ボッカティア 募集協力	一般社団法人静岡県山岳・スポーツクライミング連盟、 静岡県勤労者山岳連盟、静岡市山岳連盟、公益社団法人日本山岳会、 公益社団法人日本山岳ガイド協会
山小屋対応	北岳肩の小屋、北岳山荘、農鳥小屋
協賛企業等紹介	西原茂樹（南アルプスを応援する会）
徒歩リレー協力	島田市、藤枝市、焼津市、吉田町

※この他、多くのご関係の皆様にご協力とご支援をいただきました。

6 プロジェクト総括

1 プロジェクト全体について

- ・多くの方々にご協力を賜り、南アルプスユネスコエコパーク登録 10 周年となる令和 6 年度（2024 年度）中に大井川源流の碑を設置することができました。

2 プロジェクトの進捗管理について

- ・当初の計画では 7 月中旬に源流の碑が完成し、静岡市長の現地での設置確認を経て、8 月 11 日（山の日）に当プロジェクトのご関係の皆様と、樫島で事業紹介看板のお披露目式を開催する予定でした。
- ・今回、天候の影響により記念碑設置までの行程に遅れが生じ、静岡市長による記念碑の現地確認や、樫島での事業紹介看板のお披露目式の実施を見送ることとなりました。
- ・プロジェクトの進捗が流動的になったことで、ご協力いただいた皆様への進捗のご報告を適切に実施することができず、ご迷惑やご心配をおかけする結果となりました。

3 プロジェクトへの参加の効果について

- ・本プロジェクトの実施により、幅広い年代や地域の方が南アルプスに関する取組みに直接参加いただける機会となりました。
- ・ボランティア参加の皆様から、『南アルプスや大井川を見直す良い機会となり、普段できないことを体験でき楽しかった』というコメントや、個人 SNS 等での発信内容も好意的な意見が見られる等、楽しんで参加できる機会となりました。
- ・協賛企業の皆様からは、『こんな壮大なプロジェクトだったとは改めて驚いた。引き続き南アルプスに関わりたい』等の言葉をいただき、幅広く南アルプスに関わるきっかけづくりとして貢献できたプロジェクトでした。
- ・静岡県中部地域局のご協力を得て、大井川流域に位置する行政関係者の皆様との連携や、また、各自治体からの多大な協力をいただきました。南アルプスから大井川を通じて、駿河湾に至る広域での魅力の磨き上げの機運を盛り上げる機会となりました。

4 プロジェクトを通じた普及啓発の効果について

- ・静岡県中部地域の企業や団体の皆様に、プロジェクトの趣旨をお伝える過程で南アルプスユネスコエコパークについて知っていただける機会となりました。
- ・徒歩リレーやボッカティアでは、一般公募型イベントとして、より多くの方々に広報する機会となりました。
- ・一般来場者の出席もあった完成報告会では、『映像を見て感動した』、『みなさんの苦労がよくわかった』等の声も聞かれ、本プロジェクトへの参加者以外にも、プロジェクトの意義が伝わったものと思われます。

7 おわりに

本プロジェクトは、徒歩リレーやボッカティア、協賛金でのご支援以外にも、様々な段階で、多くの皆様から、アイデアや知識面、あるいは、技術や労務面でのご協力と、自己負担による資金面でのご支援等、様々なかたちでご参画とご支援を賜りました。

このような皆様のご支援がなければ、本プロジェクトは完遂できなかったものと思っています。

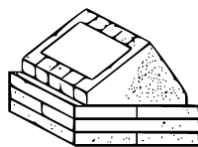
また、ご協力いただいた個人や企業等からは、『この程度のことしかしなかったのに』といった大変奥ゆかしいお言葉の数々も聞かれましたが、いずれのご協力も本プロジェクトのための大きなお力でした。仮にわずかな力とお感じになられても、裏を返せば、関係者の小さな力が集まることで大きなプロジェクトを完遂することをイメージしやすくなるきっかけとなったのではないかと感じています。

本プロジェクトの達成は、主催者となった南アルプスユネスコエコパーク静岡地域連携協議会を構成する静岡市や川根本町、静岡県といった行政団体や関係団体のみならず、南アルプスユネスコエコパークに対して当事者として参加された皆様の熱意があったからこそと感じています。

最後に、ボランティアとしてご参加くださった皆様、ご協賛いただいた個人、企業、団体の皆様、並びに、ご協力くださったすべての皆様に改めて感謝申し上げます。

事務局





南アルプスユネスコエコパーク登録 10 周年記念事業

大井川源流の碑設置プロジェクト実施報告書

令和 7 年 5 月 29 日 発行

編 集 一般財団法人南アルプスみらい財団

発行者 南アルプスユネスコエコパーク静岡地域連携協議会